

糖尿病透析患者の血糖管理 —DPP-4 阻害剤の役割リ—

博樹会 西クリニック 山川浩子 瀬在丸せつ子 一瀬ゆかり 岩切嘉代子
西隆博 西忠博

【目的】糖尿病性腎症は透析導入原因の1位であり、また糖尿病を合併する患者も増加している。看護師にとって透析管理に加え糖尿病の管理も重要である。今回、糖尿病透析患者に使用可能な内服薬 DPP-4 阻害剤の有効性、およびインスリンとの併用による血糖管理について検討したので報告する。

【方法】当院で2型糖尿病 (DM) を合併している慢性血液透析 (HD) 患者 56 名のうち DPP-4 阻害剤内服 32 名 (インスリン併用 15 名) を対象に DPP-4 阻害剤内服前後の血糖、グリコアルブミン値(GA) 及び、インスリン使用状況を後ろ向きに調査した。

【対象】対象は、DPP-4 阻害剤服用患者 32 名。年齢は平均 58.2 才。透析歴平均 7.4 年 糖尿病歴は 20.9 年でした。インスリン使用患者は 15 名。原疾患は糖尿病性腎症 29 名、CGN 3 名。合併症は表に示す。(表—1)

【対象】

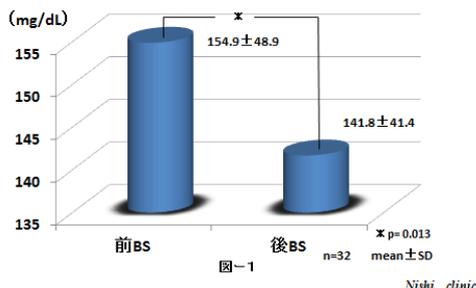
DPP-4阻害剤服用患者32名
年齢・・・58.2才 男性50名 女性6名
透析歴・・・7.4年 DM歴・・・20.9年
インスリン使用患者・・・15名

原疾患		合併症	
糖尿病性腎症	29名	CABG	5名
CGN	3名	PCI/ステント	7名
		大動脈弁置換	2名
		PAD	8名
		脳血管障害(CVD)	4名

(表-1)

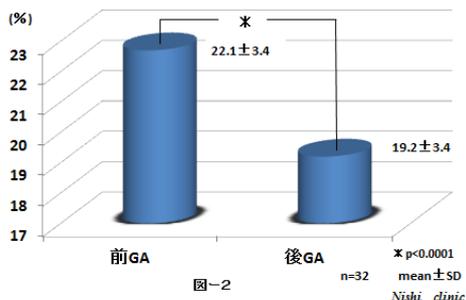
Nishi clinic

食後随時血糖

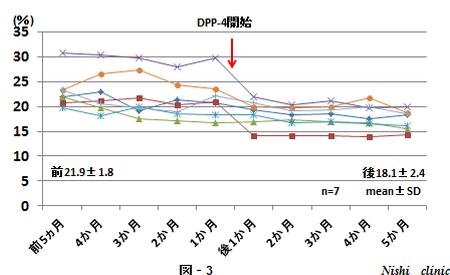


【結果】内服前後の血糖値は前で平均 154.9m g/dl から内服後 141.7m g/d l 有意に低下した。(図—1) グリコアルブミンでは前で平均 22.7% から内服後 19.2% と有意に低下した。(図-2)

グリコアルブミン



インスリン中止例のグリコアルブミン



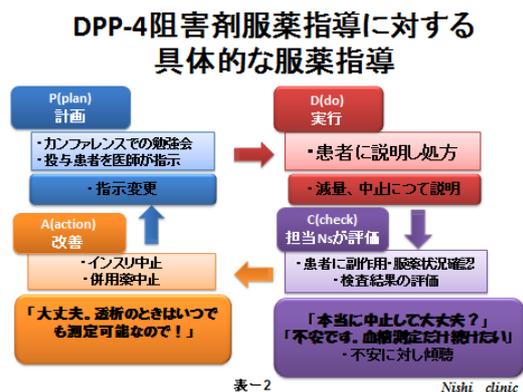
インスリン中止例 7 名のグリコアルブミン値の推移です。有意な低下がみられた。

(図 - 3)

【症例 1】 T・I 氏 56 才男性、41 才に糖尿病診断。46 才よりインスリン開始。49 才に透析導入。血糖コントロール不良が続き、2013 年 5 月より DPP-4 阻害剤併用。併用後に GA 値 20%以下へ低下し、インスリン中止。しかし、長期間インスリン使用と血糖測定を行っていたためすべて中止することに対して不安を強く訴え血糖測定は自継続。看護師より検査値の説明を繰り返し、いつでも透析中は血糖測定可能なことを説明 2 か月後には血糖測定も中止。血糖コントロール安定により現在では外食や旅行など日常生活の向上もみられた。

【症例 2】 K・F 氏 74 才女性。52 才にて糖尿病診断。55 才よりインスリン導入。66 才にて透析導入。2010 年頃より認知症発症にて自己管理困難のため、すべて家族が介助。2013 年 6 月より DPP-4 阻害剤を併用。GA 25%から 19%まで低下したため、インスリン中止。インスリン中止や血糖測定を中止することに家族から不安が強く聞かれた。看護師より繰り返し説明し検査値の説明、透析来院時に血糖測定もできること、など説明し納得されて現在では介護量も少なくなり、ストレスの軽減につながっている。

【考察】 今回の DPP-4 阻害剤服薬指導に対する具体的な服薬指導のポイントを紹介する。服薬の必要がある患者を医師が指示し、その後、患者に説明し処方の実行をする。そして担当の看護師が低血糖など副作用について確認し、またインスリン使用患者については自宅での血糖値を確認する。状況を把握し検査結果など評価する。評価後改善の必要がある場合、医師に相談、また医師とともに計画をする。今回はインスリン中止の患者より不安が多く聞かれ、中止した事例について、不安に対し、話を聞き、繰り返し状況に応じ患者に寄り添い支えた。(表-2)



【結果】 糖尿病透析患者の DPP-4 阻害剤内服前後で血糖値は平均 154.9 から 141.7mg/dL 低下、GA も平均 22.7 から 19.2%といずれも有意の低下があり、「日本透析医学会の血液透析患者の糖尿病治療ガイド 2012」の目標値にコントロールができています。またインスリンを中止できた症例は 7 名。減量できた 6 症例。2 例に低血糖症状がみられたがインスリン減量により対応できた。

【結語】透析患者に合併する2型糖尿病の治療にDPP-4阻害剤は有効であったまたインスリンが中止できる症例もあり、患者や患者家族においてもQOLの向上がみられた。